

第 112 回、第 113 回 研究会報告

第 112 回技術交流研究会が 6 月 5 日(木)に、第 113 回が 9 月 4 日(木)に、(株)ドーコン会議室で開催されました。

■第 112 回 講演概要

「中国の小都市の大学生の実態などから覗き見た中国」

北海商科大学非常勤講師 やま しょうじ 山栄 昭二

中国の小都市で学生生活を送る大学生の実態などを通して、中国の実情を眺め、中国人との今後の交流のあり方について考えてみた。



山栄氏

- ① 大学生の衣食住
- ② 大学生の恋愛事情：中国の男性は優しくて手が早い。女性は嫉妬深くて手足が強い。
- ③ 大学卒業後の進路状況：大学はユニバーサル化が急激に進行し、卒業後の就職は厳しい。
- ④ 中国の大学で日本語を学んでいる学生の日本・日本人に対する意識
- ⑤ 最後に — 中国や中国人と付き合うために —
・自国の歴史や文化をしっかりと身に付けた人材を育てることが大切。

- ・何事にも誠実で明るく思いやりの態度を持って接することは大切であるが、仕事に関しては相手に手玉に取られない「厳しさ」と「したたかさ」が必要。

【幹事より】

山栄先生は本来数学教師ですが、2002 年から 5 年間、中国山東大学(威海)外国語学部日本語科外国人専門教員として日本語を教えてきた経験をお持ちです。

これからの日本人が中国人とどう交流していけばいいのか、ポイントを教えてくださいました。

さて、堅い話はさておき、中国人のお客さんに日本料理はあまり喜ばれないそうです。理由は、品数が多くて綺麗でも、盛りつけが少なくてケチに見えるから。

■第 113 回 講演概要

その1 「四川大地震 視察報告」

(株)ドーコン 防災保全部 やま まきのり 山 真典 (応用理学)

今年 5 月に発生した四川大地震 (M 8.0) の被災地の視察を 7 月初めに行った。話題提供として報告する。

- 視察地の概要：四川大地震の震央に最も近い町の一つ、都江堰(とこうえん)である。都江堰の市街地は平野部に位置するため、斜面災害は認められなかったが、建造物の被害で著しい数の命が奪われた。
- 被災の概要：市街地中心部は多数の建物が姿を残しているもののその多くは倒壊の危険性があるため、繁華街全体が立入禁止という状況。立入許可区域においても危険な状態の建造物が多く残存していた。

広域的にみると、約 300 km に及ぶ断層沿いに存

在する街はいずれも甚大な被害を受けている一方、断層の下盤側にあたる南東方向へは断層から離れるに従い数 km 単位でその被害程度が対数関数的に減少している状況が確認された。



立ち入り禁止でも人は入る

●終わりに：耐震対策のようなハードのみならずハザードマップの作成や情報管理といったソフト面でも技術者の果たせる役割は大きいといえる。被災地の状況は想像を絶するものであったが、地震発生の機構、斜面崩壊や構造に関する理論等は、いずれも我々技術者が日常的に接する現象や考え方の積み重ねともいえる部分が多いと思う。

その2 「岩手・宮城内陸地震視察報告」

HRS 株式会社・技術本部

おおうら ひろあき
大浦 宏照 (応用理学・総合技術監理)

やまだ つかさ
(株)ドーコン 地質部 山田 司 (応用理学)

平成 20 年 6 月 14 日、宮城県内陸南部を震源とするマグニチュードは 7.2 の地震が発生した。震源の深さが約 8 km と非常に浅く、岩手県奥州市と宮城県栗原市で最大震度 6 強を観測した。平成 7 年 1 月に発生し 6 千人以上の方が亡くなった阪神淡路大震災は、マグニチュード 7.3、震源の深さ 16 km であるから、地震の規模としてはこれに匹敵するものであった。今回の地震では多くのがけ崩れや、それに伴う土石流が発生し、これら土砂災害に巻き込まれるなどして、12 名の死者と 8 名の行方不明者が出た。その一方で、阪神淡路大震災で多発したような、家屋の倒壊は 33 棟にとどまっている。

筆者たちは、平成 20 年 7 月 29 日から 31 日の 3 日間、財団法人北海道道路管理技術センターからの依頼により、現地調査に参加した。

現地では宮城県荒砥沢ダム周辺の移動土量 7 千万 m³ に上る大地すべり、岩手県祭時(まつるべ)大橋の落橋、岩手県餅転橋付近の地表面断層、宮城県駒の湯の土石流、その他多くの被災状況を視察した。

今回の被災箇所の大半は、地すべり・斜面崩壊等に起因するもので、道路橋が崩れた岩手県祭時大橋も、橋台が斜面崩壊により約 10 m 変位したことが落橋の原因であった。その一方で大規模な斜面変動箇所の近傍でも、橋梁やダム、家屋等にはほとんど被災がないという点で特徴的であった。その原因は、今回の地震動が、短周期の波形が卓越することによるものとの報告もある。

講演では、ヘリによる現地視察ビデオ等を用いて被災概要について述べ、現地調査写真等を用いて道路の被災状況を中心に述べた。



祭時(まつるべ)大橋落橋

【幹事より】

次回、第 114 回は 12 月 4 日(木)を予定しております。開催予定は、ホームページのイベントスケジュールに常時掲載しております。また、EPO でも随時お知らせします。皆さんもこんな面白い話を聞きに来ませんか？

技術交流研究会では、会員を随時募集しております。入会あるいは研究会へ出席を希望される方は、北海道支部事務局(出村)までご連絡ください。

(文責：技術交流研究会幹事 金 秀俊)